



喜多流自主公演

平成二十九年三月

平成29年 3月26日(日)

12:00開演(11:00開場)

十四世喜多六平太記念能楽堂

料金:全席指定(税込)

S席 9,000円 A席 8,000円 B席 7,000円

C席(1階階敷席) 6,500円 D席(2階席) 6,500円

学生席(2階席) 2,500円(25歳以下、要学生証提示)

- ・午前11時15分より、本舞台にて当日の演目の解説をいたします。お気軽にご参加ください。
- ・当日券をご用意できる場合は午前10時45分より発売いたします。

主催:公益財団法人 十四世六平太記念財団

協力:喜多流職分会

後援:品川区、品川区教育委員会

助成:文化庁(平成28年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業)



小花 塩月 佐々木多門 金子敬一郎

チケット予約購入のご案内

インターネット

喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>
(24時間対応、要登録・無料)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

② 喜多能楽堂事務局 窓口

クレジットカードでお支払いの上(ホームページでのweb決済)、ご予約の際に画面に表示された番号を窓口にご提示いただき、チケットをお受取りください。現金でのお支払いはできません。

電話予約

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上、チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

② 郵送

チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みください。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

③ 喜多能楽堂事務局 窓口

ご予約の際お伝えした番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金のみとなります。

窓口

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

お支払いは現金のみとなります。

※お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。ご予約の際ご案内いたします。
※ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

ご注意

- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・ロビー・見所でのご飲食はできません。2階ラウンジをご利用ください。
- ・喜多能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。コインロッカーもご利用ください。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

喜多流自主公演年間優待券

5枚綴り 35,000円

- ◆ご希望のどの席種でもお選びいただけるお得な年間優待券です。
- ◆お求めは喜多能楽堂事務局まで。各喜多流職分でも承ります。
- ◆ご観能の際は別途、座席指定券をご予約ください。
 - ・追加料金はかかりません。
 - ・ご予約は、インターネット、電話、窓口で承ります。
 - ・年間優待券のみでの観能はできません。
 - ・ご入場の際は、年間優待券と座席指定券をご提示いただきます。
- ◆ご利用は、表記年度中(4月～3月)の喜多流自主公演のみ有効です。青年能には使用できません。

自主公演観客席御案内



S席	9,000円	C席(1階階敷席)	6,500円
A席	8,000円	D席(2階席)	6,500円
B席	7,000円	学生席(2階席)	2,500円

会場案内図



JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分。目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。

※当能楽堂は駐車場施設がございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います。

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9

TEL: 03-3491-8813 FAX: 03-3491-8999

喜多能楽堂ホームページ: <http://kita-noh.com/>

能

花月

シテ花月 金子敬一郎

ワキ旅僧 福王和幸

大鼓 亀井 実
小鼓 住駒充彦 笛 藤田貴寛

アイ清水寺門前の者 高澤祐介

後見 友枝昭世
内田安信

地謡 友枝真也 谷 大作
友枝雄人 大村 定
高林呻二 出雲康雅
粟谷浩之 中村邦生

狂言

水汲

シテ新発意 三宅右矩

アドいちゃ 三宅近成

休憩(二十分)

仕舞

昭君

粟谷浩之

地謡 高林昌司
佐藤 陽
佐藤 寛泰
谷 友矩

能

小塩

後シテ在原業平の霊
前シテ権翁 佐々木多門

ワキ連都の人 矢野昌平

ワキ都の人 福王知登

ワキ連都の人 村瀬 慧

アイ大原の里人 前田晃一

大鼓 大倉慶乃助 太鼓 大川典良
小鼓 曾和正博 笛 槻宅 聡

後見 香川靖嗣
塩津哲生

地謡 塩津圭介 狩野了一
粟谷充雄 粟谷明生
内田成信 粟谷能夫
大島輝久 長島 茂

附祝言

終了予定時刻 三時半頃

花月(かげつ)

七歳の時に天狗隠しに遭い行方知れずとなった息子を捜すために出家をした父親は、故郷の九州彦山から諸国行脚に旅立つ。ある年の春に京都の清水寺を詣でたところ、居合わせた門前の男に何か面白いものはないかと尋ねると、花月という名前の少年が居るといふ。やがてやって来た花月と門前の者が小歌をうたって楽しむうち、鶯が来て花を散らすので弓矢で狙うが仏の殺生戒を破ってはいけないと思いとどまる。また、清水寺縁起の曲舞を舞ったりして興じる。その様子を見ていた旅僧は、花月が我が子ではないかと思ひ始め、やがて確証を得て父だと名乗り出る。花月は父との再会を喜び、門前の者はお別れに羯鼓を所望し、花月は羯鼓を打って、天狗にさらわれてからの身の上を語りながら舞い、そして父とともに修行の旅に出るのであった。

(約六十分)

水汲(みずくみ)

門前のいちゃが野中の清水で洗濯をしていると、寺の新発意が来客のためのお茶の水を汲みに同じく清水にやってくる。

日頃からいちゃに思いを寄せていた新発意は、そと近づきちよっかいを出して、いちゃに水を汲ませたり、小歌を歌わせたりしてたわむれる。

(約二十分)

小塩(おしお)

都の人々がつどい、大原山の花見に出かける。そこに一人の老翁が桜の枝をかついで、いかにも華やいだ風情でやってくる。これを面白く思い声をかけた花見の衆に、老翁は「大原や小塩の山もきょうこそは神代の事も思はずらめ」などの古歌を口ずさみつつ歌の心を語る。やがて夕暮れになると老翁は自分の正体をほのめかして、夕霞の影に消え失せる。(中入)人々が花の陰で仮寝をしていると夢の中に、花見車に乗った在原業平がありし日の幽艶な姿を見せる。業平は伊勢物語の歌をつづつて恋の遍歴を回想し、優美に舞の袖を返す。そして「夢かうつつか寝てか覚めてか」という古歌の言葉の通りに、花吹雪の中へと消えてゆく。

(約百五分)

平成二十九年 四月 自主公演番組予告

平成二十九年 四月二十三日(日) 正午始
十四世喜多六平太記念能楽堂

月宮殿

中村邦生

賀茂物狂

金子敬一郎

鶉飼

香川靖嗣